伊勢市廃棄物減量等推進審議会（令和3年度第1回）審議結果等

* 日時：令和4年1月18日（火）10時から
* 場所：伊勢市役所東庁舎4階4-2会議室
* 出欠：
  + 委員：別紙のとおり
  + 事務局

環境生活部長（藤本）、環境生活部参事兼ごみ減量課長（出口）、ごみ減量課副参事兼ごみ減量減量係長（林）、ごみ減量推進係主査（東條）、ごみ減量推進係（森井）

* 審議結果等

事項書に記載の報告及び審議事項に関する事務局からの説明に対し、以下のとおり質疑応答及び審議が行われた。

な●報告事項

なる○令和2年度ごみ排出量実績について【資料1-1、1-2】

|  |  |
| --- | --- |
| （委員1） | まずは、事務局から報告をお願いします。 |
| (事務局1) | 令和2年度のごみ排出量の実績は昨年度に比べて2,324ｔで4.5％の減少で、このうち家庭系ごみは680ｔで1.9％減少、事業系のごみは1,644ｔで9.7％減少となっている。平成24年度から令和2年までの中で見ていくと、平成26年、27年あたりが一番減少（1,200ｔくらい）があったが、令和2年度は年間で2,300ｔで倍近い減少。要因としては、コロナ禍で事業活動が停止したことが挙げられる。資源回収量はそれほど減少していないが、プラや衣類の量が増えるなどステイホームの影響が引き続き見られる。一日の平均ごみ排出量は1％の減少である。 |
| （委員2） | 資源回収量の集団回収量が特段に減っているが、小学校がリサイクルで回収したものも入っているのか？ |
| (事務局1) | 集団回収は29.3％の大きな減少で、コロナ禍で廃品回収が中止になったこともあり、例年にない減少である。 |
| （委員2） | 全体でごみ総排出量が4.5％減っており、家庭系のごみはやや減りが少ない。行政よりも我々市民がもっと頑張らなくてはならない。人口が減っているので、何もしなくても減るはずだが、減り方が少なかったことに対して事務局はどのように分析しているのか？ |
| (事務局1) | 委員2委員には昨年度、ごみがなかなか減っていないとご指摘を頂いている。人口は減少しているが世帯数が増えているのもあり、減っていない。 |
| (事務局2) | ひとつ補足させていただくと、家庭系の一日の平均ごみ排出量は、  一人あたりの量で微減だが、全てが人口の減少という話だけでない、ステイホームが全ての原因といえるのか、コロナ禍はまだ続くが、今後も見極めながら啓発等を続けていきたい。 |
| （委員3） | 買い物をすると、過剰包装が多い。庭の花なども乾かして小さくしてもかなり出るので、家からの排出量は多いと思う。マスク等も捨てるので回収してくださる方の健康が大丈夫かと考えており、感謝申し上げたい。 |

●報告事項

○令和3年度ごみ排出状況について【資料2-1】

|  |  |
| --- | --- |
| (事務局1) | 事業活動に伴うごみは昨年より増加しているが、例年に比べると少ない。合計は12月現在で昨年より16ｔ少ない状況である。 |
| （委員4） | 令和3年度はまだ1月～3月があるので、今後増えるかもしれない。そんなに減っている感覚がないので違和感がある。 |

●審議事項

○令和3年度取組み施策について【資料3】

【事業1：食品ロス削減に関する取組み】

|  |  |
| --- | --- |
| (事務局1) | 【事業1：食品ロス削減に関する取組み】  ①フードドライブの仕組みづくり  ファミマと社協と連携し、市内7店舗で実施しており、当課は社協への運搬を担当。実績は1店舗あたりおよそ7キロぐらいの量。  ②食に感謝　食べきり応援店の登録店舗拡充  コロナ禍で拡充活動はできなかったため、HPでの募集のみ。  ③市内スーパーでの啓発活動  昨年同様キャンペーンを実施。2,352通の応募や200件以上のメッセージ等を頂き、手前どりの習慣なども広がった。  【事業2：生ごみの水切りに関する取組み】  ①生ごみ水切り動画制作と配信→現在制作中で年度内に配信予定。  ②自治会等への水切り啓発→コロナ禍により啓発ができなかった。  【事業3：脱炭素社会への取組み】  ①市役所でのマイボトルアンケート実施  約8割の職員はマイボトルなどを使用。今後はマイボトル・マイカップ協力店制度の仕組み作りをしていく。  【事業4：雑がみの資源化に関する取組み】  ①資源化できなかった紙類の資源化  トイレの紙さまプロジェクトで令和3年度の成果は約18,000kg。  トイレットペーパーは伊勢市環境会議から伊勢市に寄贈し、市内小学校への返礼分に充当。  ②雑がみチャレンジ  夏休み期間に家庭で出た1,675kgの雑がみを資源化。  【事業5・6・7：その他の啓発】  ①Facebook、Instagram、LINE等を利用した情報発信  継続して実施中。令和3年度は11回掲載。  ②出前講座の実施  環境会議の出前講座で保育園等へ延べ11か所訪問。ごみ減量課が小学校7校へパッカー車の出前授業を実施。今後は皇学館大学の入学時オリエンテーションで分別啓発を実施予定。 |
| （委員1） | 皆さんからご質問やご提案がありましたら、お願いします。 |
| （委員2） | 皇学館大学でのオリエンテーションがあるが、具体的にはどういうのものか？ |
| (事務局1) | オリエンテーションの一部の時間を頂くので、今のところはチラシを配布して説明することを考えている。 |
| （委員4） | 先日皇学館大学に行ったが、全国から大学生がみえるので、伊勢市のごみ出しに慣れてない。わかりやすいチラシを作ったとのことで良いことだと思う。 |
| （委員2） | 個々の食品ロスを減らすなど、一人ひとりの環境意識が伴わないと行政だけが頑張っていても実績が出にくい。税金がからんでくることを市民の方にPRして意識してもらうことが重要。 |
| （委員3） | 広報いせにごみや環境のことがよく掲載されるので、市民の目にはずいぶん頭に入ってきたなという感覚はある。脱炭素については、コンビニなどでスプーンなどの便利なものがなくなって、気候変動の問題もあるが死活問題の人もいる。マイスプーンなど取り組むのは大事だが、若い人は便利な世の中になってしまっているものをなくして逆の方に向いていくのは大変と感じる。 |
| （委員5） | 久しぶりのごみ減量審議会に出たが、かつてやってきた状況よりうんと進んでいる。しかしながらごみ処理は永久の課題であり、人間がいる以上ごみが出る。これをいかに街の中や自治体、日本全体でどう考えていくかが非常に大事で、皆様のご協力を得て審議会を進めていきたいので、よろしくお願いします。 |
| (事務局3) | 委員2委員と委員3委員のPRの話の中で、確定ではないが、広報誌でごみ処理施設の話を出していく予定。委員3委員が言われた新しい法律（プラスチック資源循環促進法）だが、一昨日に閣議決定された。  スプーンなどの有料化やホテルでのくしなどが有料化などの話になってくる。クリーニング店のハンガーやカバーは燃えるごみになっているが、それもなくすかリサイクルの方向になる。実際ハンガーはチェーン店では持ち込んだら回収している。行政としても容器包装と若干違う中で今後、製品プラスチックがどうなるかが一番大きな問題。  私どもがどんな形で市民の皆さんにご理解頂いて回収することができるのか？法律は4月にできるが、詳細はまだ出てこない状況なので、それが明確に決定したら負担は出てくるかもしれないが、どうやって回収ができるか検討していかなければならない。 |
| （委員2） | フードドライブについて、NPOれいんぼーで行ったがコンビニはファミリーマートだけなので、他のローソンなどに参加していただくように市として言える立場なのか、社協とコンビニの関係なのか。そのあたりは？ |
| (事務局2) | 他のコンビニでもそういう話はあったが、市と企業様が求める部分でなかなか話が折り合わなかったところもある。私たちもファミリーマートのみで収めるつもりはないので、機会があれば積極的に連携を図れると良いと考えている。今回は社協の話があり、フードドライブのように有効に活用してもらう施策は進めていくべきと考える。社協の話ではマンパワーが追い付かないという課題も聞いているが、今回、我々が運搬で参画することによって、事業が広がるので進めていくべきである。 |
| （委員2） | 皇学館大学の学生さんでも、アルバイトがなくなって生活に困っていると聞いている。是非、進めてほしい。 |
| (事務局2) | 昨年の9月から始まり、広報等で周知させていただいたが、まだファミリーマート全域ではなく、私たちの周知も道半ばといった段階であるので、もっと幅広く周知させていただくと皆さんからのより積極的な協力を頂けると思う。 |
| （委員6） | 情報発信のところで、個人的にラインの伊勢市アカウントを利用しており、ごみの分別に困った時に自動的に返信してくれて、すごく助かっている。先ほど皇学館大学でオリエンテーションでチラシを配布するということだったが、チラシにQRコードで案内するとよいのではないか。 |
| （委員4） | チラシにQRコード載せてもらっている。 |
| （委員6） | そのように広まってもらえると、もっと身近なものになると思う。 |
| （委員7） | 参考までに、伊勢市の店舗（スーパー）では不法投棄がほとんどないが、津市は不法投棄が多い。調べてみると、伊勢市は資源ステーションがあり、わからない時は担当の方に聞くという仕組みができているのが非常に強いと思う。ごみの分別がきちんとできないのは、知識がないということ。例えば雑がみは、ほとんどごみとせずに雑がみで出せる。皆さん意識を持ってないというか知らない状況。そのような時に広報していただけると、ごみが減るのではないか。  弊社でも松阪でフードドライブをしているが、集めるのはそれほど難しくないが、配るのが非常に難しい。プライバシーの問題や量を分ける労力などを解決できればできないことはない。 |
| (事務局3) | 名古屋にセカンドハーベストジャパンというNPO法人があり、三重県内でも活動しているが、物を置く場所がないので社協へ直接持ち込んでもフードドライブの扱いをしていただける。一番は、どういう形で困っている方に配布するかと、倉庫がないのがネック。社協と話し合ってクリアできる問題はクリアしながら進めていきたい。 |

●審議事項

○令和4年度施策について【資料4】

事業①②食品ロス削減・生ごみの水切りに関する取組み

|  |  |
| --- | --- |
| (事務局1) | 事業①②食品ロス削減・生ごみの水切りに関する取組み  新たに小学校5年生を対象にした「ごみゼロチャレンジ（食品ロス削減・生ごみの水切り・プラごみの削減）」市民の方からもアイディアを募集する。  事業③雑がみの資源化に関する取組み→引き続き推進する。  事業④協働による計画推進に関する取組み  今年度に続き、スポGOMI大会を伊勢市でできないか検討中。 |
| (事務局2) | 補足になるが、これまでの取組みと大きく違うところは「ごみゼロチャレンジ」が小学校5年生が対象であること。小学校4年生はこれまでも環境教育の一環として授業を行ってきたが、減量化を進めていくにあたり、まずは子どもたちから次世代につないでいく仕組みを作っていきたいというところから、4年生で雑がみチャレンジを経験して終わりではなく、5年生にも継続した形で環境学習を充実させたい。子どもたちだけではなく、父兄の方々にも一緒に取り組んでいただきながら、ごみの減量・資源化が大事であることを実感できるような取組みにしていきたい。  事業②の生ごみの水切りは、一番効果的なのはコロナ禍前のように対面で話をしていくのが良いが、コロナ禍が続いて啓発ができないので、別の形でということで動画配信を考えた。「ごみゼロ大作戦」は冊子等で啓発を続けてきたが、今度は目に見える形でどれくらい昨年より減ったのか？など数値化していきたい。 |
| （委員5） | ただいまの説明でご意見、ご質問はありますか？ |
| （委員2） | 現在、23の地区でまちづくり協議会があるが、委員4委員から見せていただいた浜郷のまち協がごみを減らそうというチラシがよく出来ていた。私どもの東大淀まち協も北浜中学校があった時は、中学校区で毎年海岸清掃の取組みをしていたが、豊浜中学校と合併してから中断してしまった。 |
| （委員4） | 浜郷まち協の中で「あかるくうつくし委員会」委員長をしているが、啓発チラシの中身を考えている。先ほど委員3委員も言われたように、プラスチックごみが増えるので、出し方も変えてもらってもいいのではないか。また、スポGOMIに参加したが、ほとんどがプラスチックごみだった。若い世代は分別をしないのでプラスチックごみが増えるが、年配の方は総菜を購入してプラスチックごみが増える。今後は資源化することをもう少し前に出す方針で、令和4年度は行政が進んでいってほしい。ごみを敵視して減らすのではなく、増えていくものをどのようにして資源化していくかということを取り組んだほうが良い。 |
| (事務局3) | 市民の方が出しやすい形の啓発のやり方や、言葉も使っていかなくてはいけない。「資源物」という言葉をずっと使っているので、一人でも二人でも多く認識いただく必要がある。これから印刷するものは、考慮しながら作っていきたい。  プラスチックが問題になっているのは事実であり、社会情勢なのか思い切ってやらなければならないのか両方の局面がある。極論を言えば行政が方向転換してプラスチックを使わないという方法もある。社会情勢で10年先になるか5年先になるかわからないが、海外からも動いてきていており、ドイツなどヨーロッパでは量り売りが普及してきている。動向を見ながら考えていかなければならない。今はプラスチックは石油製品を使っているが、一つの方法の中に自然由来のバイオプラでやっていくというものある。例えば燃えるごみの指定袋に導入する方法もあるが、それを使うために材料を作るというのは本末転倒であり、食品の余った物を使うのであれば有意義である。 |
| （委員8） | 容器包装の出し方について、伊勢市さんは網に入れているので、あれは非常に良いと思う。きれいなものしか入ってないので、近くを歩いてもあまりにおいがしない。南伊勢町の業者さんも伊勢市さんからの容器包装はきれいと話している。 |
| （委員3） | においのしない容器にするには、私たちは水を使う。何かをしようと思うと何かがかかる。汚れた物を出すのは回収してくださる方や周りに気の毒。 |
| (事務局3) | プラの回収の仕方は、県下でも独自のやり方だと思う。容器包装リサイクル法が始まり、プラスチック容器包装やペットボトルなど燃えるごみ以外は増やさないという観点で今のやり方になった。私どもだけではなく、市民の皆さんにご協力いただいている。ごみになるものは入り口から減らしていかなくてはならない。 |
| （委員3） | 子どもが愛知県在住だが、愛知県は粗大ごみを捨てる時に住民票の確認をするそうだが、伊勢市の場合は？ |
| (事務局3) | 住民票は、年一回の自治会の粗大ごみも確認していない。伊勢市に土地や家があって、市外在住の場合は伊勢市で発生したごみなので、どこで発生したごみかという考え方になる。 |
| （委員9） | 清掃工場では、計量窓口で市町の確認をしている。 |
| （委員3） | ご近所同士の顔が知れているゆったりした市町といえる。 |
| （委員5） | 余裕があるからこそ他の市町でできないことができてモデルケースになっていく。我々で考えたことが非常に重要で、何かをやる時に最初から施策を作るのではなく、モデルみたいなものを作ると早く進歩する。都会でもごちゃごちゃになっている中でテストをするのが非常に難しい。できれば地方から発信していけたら良い。  先ほど委員4委員が言われたように、要らなくなったものに対して一律「ごみ」というのは難しい。ごみの中でそれぞれ違う名前を付けることで意識していく。例えばプラスチックも「バイオ」とつけば、土に入れても分解されていく。できることからやっていくとすれば、土の中に埋めて有機物に戻っていくものであるならば、「バイオ」と必ずつけるなど。「バイオ」とつくものは土に埋めてよいので、分別がひとつになる。そんな工夫を余裕のある自治体からやるという考えが重要。 |
| （委員2） | 毎年9月に科学創作展があるが、バイオプラスチックの研究がたくさんある。中学生をターゲットにごみ減量のアイディアを募集してみては？ |
| （委員5） | 宇治山田商業高校が最近活動をしているので、中学生も巻き込んでいくことも大事。 |
| （委員3） | 良いことではあるが、中学生は忙しいので難しいのではないか。 |
| （委員5） | ある学校に話したが、出前授業で外から来る人がかなり多く、全部受け入れていたらパンクする。限られた時間と人材の中でどれだけ大切なことをやるかが重要で、その整理を誰がやるかが大事。  今は情報過多の時代で子どもたちの周りに溢れており、その中で何を選び、誰が発信するのか？ごみ処理も発信すれば終わりでなく、本当に大事なことをどうやって伝えるか、やればいいという時代は終わった。ごみの中で一番大切なことを知らせなくてはいけない。  この会議で個々の意見も重要だが、全体を俯瞰しながら意見を伝えていただけるとありがたい。 |

●審議事項

〇ごみ処理基本計画の改定について【資料5】

|  |  |
| --- | --- |
| (事務局1) | 平成30年から10年間で計画しており、中間年度の令和4年度は見直しを行うが大筋の変更は行わず、一部修正のみを考えている。  主な改定項目はごみ量等の予測データ、施策の追加、新たな法律関係の予定。 |

●その他

令和4・5年度伊勢市廃棄物減量等推進審議会委員の公募について

|  |  |
| --- | --- |
| (事務局1) | 次年度の公募は、広報等で周知させていただく。 |
| (事務局3) | 津市にペットボトルの高度処理施設ができて、昨年職員が訪れた。年度内に行けるのであれば委員の皆さんにお知らせしたい。 |
| （委員5） | 今後もごみ処理の問題は本当に大事なところなので、皆様のご意見、知識を拝借いただけたらと思います。本日はありがとうございました。 |